バドミントン上級者との差

～ダブルスのサーブレシーブからの考察～

【アブストラクト】

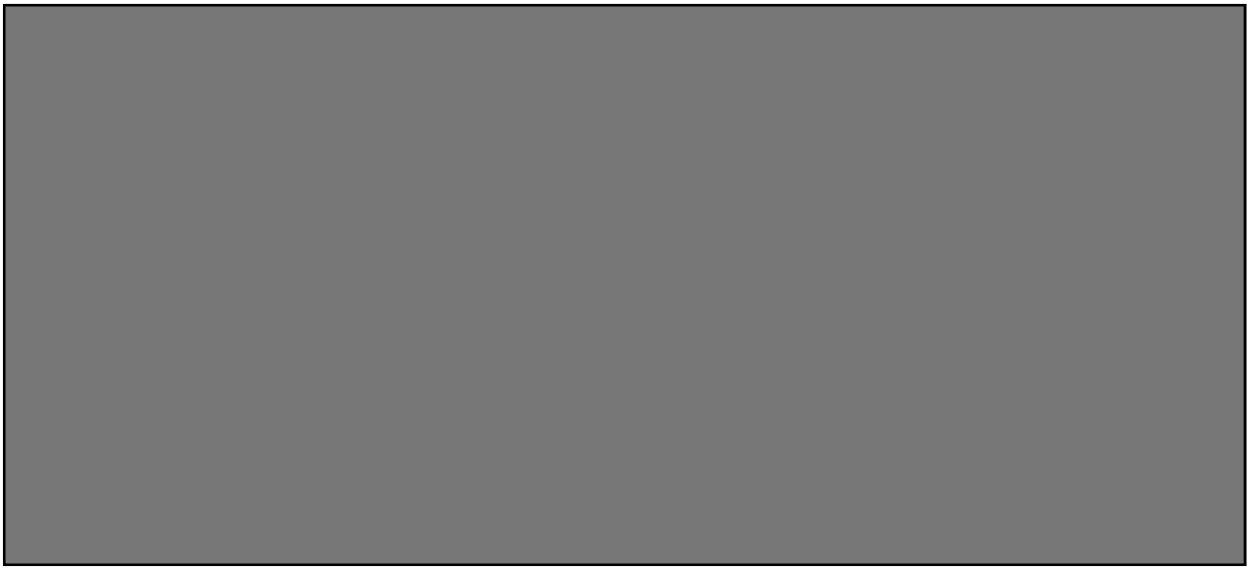
本研究では、現在グローバルな活躍を見せるバドミントンのプロの選手と私のような一高校生部員ではプレーにどのような差があるのかを、ダブルスのサーブレシーブに注目して、解明した。プレー動画による比較、また実業団選手へのアンケートの結果より、プロの選手は私とは違い、試合を有利に進めるにあたって、ボディへのショットを多く活用していることが判明した。ダブルスのサーブレシーブにおけるプロの選手との差はボディへのショットであると考えられた。

キーワード：スポーツ、バドミントン、サーブレシーブ

【本文】

Ⅰ．はじめに

近年、日本のバドミントンのトッププレイヤーは世界ランク上位に食い込み、オリンピックでもメダル獲得も大いに期待されるほどに成長してきている。そこで、私は、高校生とグローバルに活躍する選手と比較して、プレーにどのような差があるのかを疑問に思いこの研究を開始した。私の探究では、プレイヤーがどこに配球しているかという観点から、プロ選手と私自身とを比較していくことで、プロ選手、すなわちバドミントン上級者との差を探求することとした。



文献［1］

Ⅱ. 研究方法

本研究では、プレイヤーの配球の中でも、ダブルスのサーブレシーブ[1)]の配球に着目して研究していく。その理由は、サーブレシーブはラリーのはじめに行われるため試合に大きく影響すると考えられるからである。

また、データ収集及び研究には以下の 2 つの方法を用いる。

①プレー動画からデータを収集し比較する方法

②プロ選手にアンケートを取る方法

この 2 つの方法の他に、サーブレシーブに関する実験を設定し行う方法が挙がったが、対照実験を行ことが困難であることから上記 2 つに絞ることとなった。

《データ収集及び研究の方法の具体的内容》

①プレー動画からデータを収集し比較する方法の流れ

ⅰ)比較に使用するデータ

・2015 年全日本総合バドミントン選手権決勝　園田啓悟／嘉村健士ペア　保木卓朗／小林優吾ペア

・令和五年宮城県高校総体　ダブルス

ⅱ)各ラリーのサーブレシーブ配球位置の記録

プレー動画から、サーブレシーブがどこに配球されたのか、またその場所への配球が試合にどう影響を与えたのかを記録する。記録したデータは、上級者のデータと自分のデータを分けて、「配球位置」、「有効打率[2)]」の 2 つの項目について整理し、コートを 9 分割した記録表（図 1）にまとめる。「配球位置」、「有効打率」のデータ整理は次のように行う。

・配球位置

{(ある場所に配球された回数)÷(全球数)×100}で割合を出す。0%は白、1～9%は青色、10～19%は黄色、20%～は赤色で示す。（図 2 が記録例である）

・有効打率

{(有効な球数)÷(ある場所に配球された回数)×100}で割合を出す。0%は白、1～29%は青色、30～59%は黄色、60%～は赤色で示す。

ⅲ)データの比較

配球位置のデータをもとに、上級者と自分の配球の傾向を考察し、どのような違いがあるのかを、比較することで求める。またなぜ、傾向にその違いが出たのかを有効打率のデータから考察する。

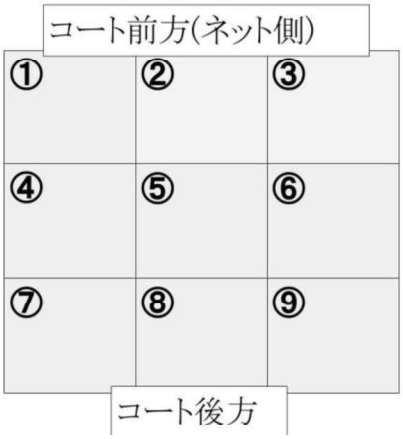


図1　記録表テンプレート

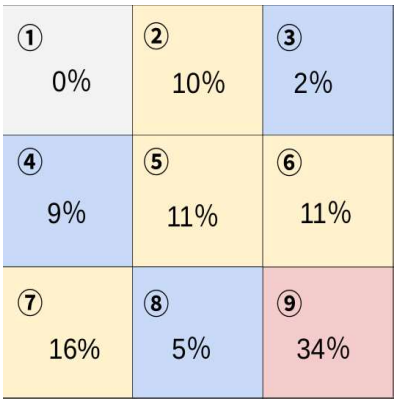


図 2　記録表記録例

②アンケート結果からの考察の流れ

ⅰ)アンケート対象

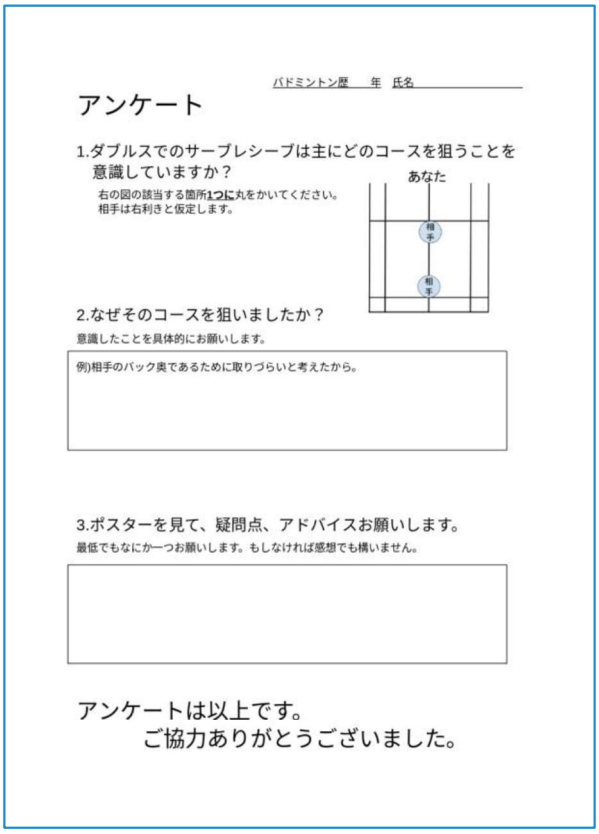
・三菱自動車京都バドミントン部[3)]　選手６名

修学旅行時、三菱自動車京都バドミントン部監督高木孝一郎氏、マネージャー築山晴美氏から本研究に助言を頂き、選手方にアンケートを実施した。

図3　三菱自動車京都監督高木氏（左）とマネージャー築山氏（右）

ⅱ)考察

選手６名のアンケート(図 3)の１つ目の「サーブレシーブのとき意図的に配給する位置はどこか」の質問への回答を集計し、そこから、どこを狙うことが多いのか傾向を考察する。またアンケートの2つ目の「なぜそこへ配給するのか」への回答から、傾向が生じる理由を考察する。



バドミントン歴　　年　氏名

アンケート

1.ダブルスでのサーブレシーブは主にどのコースを狙うことを意識していますか？

右の図の該当する箇所1つに丸をかいてください。
相手は右利きと仮定します。

あなた

相手

相手

2.なぜそのコースを狙いましたか？

意識したことを具体的にお願いします。

例)相手のバック奥であるために取りづらいと考えたから。

3.ポスターを見て、疑問点、アドバイスお願いします。

最低でもなにか一つお願いします。もしなければ感想でも構いません。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

図４　実施したアンケート

Ⅲ.探究内容

①プレー動画からの比較

ⅰ)配球位置データから読む傾向

図5より、プロ選手の傾向として相手プレイヤーのボディ[4](②, ⑤, ⑧の場所)の配球の割合が大きい事がわかる。また、相手プレイヤーのバックハンド側[5](④)も割合も大きいことがわかる。

図6より、自分の傾向として配球が偏っており、配球割合が 0%の位置が多く見られる。コート後方(⑦, ⑨)への配球が割合を大きく占めていることを読み取れる。また配球位置は相手のバックハンド側(①, ④, ⑦)に偏っている。

ⅱ)プロ選手の有効打率データから読む傾向

図7から、相手のボディ(②, ⑤, ⑧)への配球は有効打率が高くなっている。コート中央バックハンド側(④)への配球も多い。対して、コート後方バックハンド側(⑦)の有効打率は低くなっている。

① 4.1%	② 11.3%	③ 1.0%
④ 20.6%	⑤ 14.4%	⑥ 6.2%
⑦ 7.2%	⑧ 30.9%	⑨ 4.1%

図 5　プロ選手4名の配球割合

① 5.7%	② 0%	③ 0%
④ 8.6%	⑤ 0%	⑥ 0%
⑦ 54.3%	⑧ 5.7%	⑨ 25.7%

図 6　自分の配球

① 50%	② 72.7%	③ 100%
④ 55.5%	⑤ 78.6%	⑥ 50%
⑦ 28.6%	⑧ 63.3%	⑨ 50%

6)

図 7　プロ選手 4 名の有効打率

②アンケート結果

表 1　アンケート結果

回答位置(図8)	配球位置の意図
1	次に自分たちが力強いフォア[7]でアタックできる確率が高いから。
2	相手にロブ[8]を上げてさせて、自分たちのアタックにつなげる。
3	相手がバックハンドとなるのでコースを読みやすい。
4	サイドに打つよりボディに打つほうが、強い球が返ってこない。
5	自分のサイドアウト[9]等のミスの確率が低い。
6	少しフェイントをいれ相手の足をとめ次のラリーにつなげる。

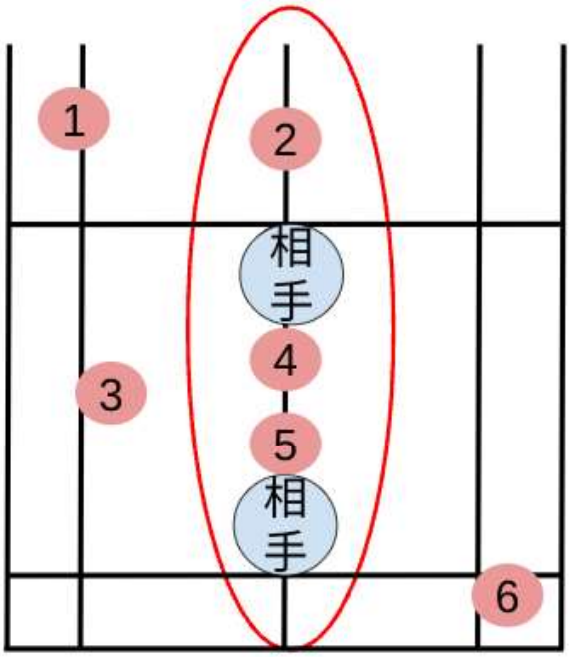


図 8　実業団選手 6 名のアンケート回答

アンケート結果より、実業団選手 6 名のうち半数は、ボディ（図 8 赤線部）を狙うことを意識していることがわかる。表 1 よりその意図は、相手にロブを上げさせチャンスを作ること、相手からの強いショットを防ぐこと、また自分のミスを減らすこと、が挙げられている。

Ⅳ. 考察

1. プロとの共通点

プロ選手と私の配球の共通点として、プレー動画からの配球位置のデータ（図 5、図 6）から、相手プレイヤーのバックハンド側を多く狙っていることが挙げられる。その理由としては、バックハンドのストロークに要求される動作内容に非日常的なものが多く含まれるためにうまく打ち返すようになるには、練習時間を多く必要とすると言われているからだと考えられる[2]。（有田・加藤・渋谷・吉岡・西島、1998 年）

2. プロとの相違点

プロ選手と私の配球の傾向の相違点として、プレー動画からの配球位置のデータ（図 5、図 6）と実業団選手 6 名のアンケート回答（図 8）より挙げられるのは、私と比べてプロ選手が、ボディへのショットを多く使っていることである。プロの選手がボディへのショットを重視する具体的な理由としては、アンケート結果（表 1）より「相手にロブを上げてさせて、自分たちのアタックにつなげる」、「強い球が返ってこない」など自分たちに有利な展開を作るためであることだと考えられる。この意図は、プロのボディ配球時の有効打率（図 7・②⑤⑧）が他の場所より高くなっていることからも妥当であると判断できる。

また他のボディを狙う意図として、「自分のミスを抑える」ことも考えられる。これは、コートの中央部へのショットであり、コートサイドを狙う場合より、ショットのブレがサイドアウトのミスに繋がりにくいからであるからだと考える。

Ｖ．まとめ

考察からバドミントン上級者と私との差は、ボディへのショットの活用であるとわかった。ボディへのショットはその有効性が高く、自分たちが強いショットを打ち、得点につながるような有利な
試合展開をつくることができると考えられる。加えてサイドアウトのミスを減らすことができるのもボディへのショットの利点である。また、プロ選手と私とでは、バックハンドへのショットの使用に関しては、共通していることがわかった。これらのことから、上級者のプレーに近づくには、バックハンドへのショットは継続しつつ、配球の偏りを減らすようにボディへの配球を増やすことが必要であると言える。

注

1） 相手から打たれたサーブに対する返球のことを指す。

2） 本研究では、サーブレシーブ後の次のショットがスマッシュ、プッシュなどの攻撃的なものであったか、またはサーブレシーブ後のラリーが自分たちの得点となったかを指標として有効性のデータを集計した。

3） バドミントン S/J リーグ（日本リーグ一部）の参加チーム。京都府京都市を活動拠点とする。

4） バドミントンにおいてプレイヤーの体周辺を指す。

5） バドミントンにおいて、プレーヤーの利き手の反対方向側の位置を指す。

6） ③の位置に配球されたというデータが少なかったために有効性が 100％と出てしまっている。

7） バドミントンにおいてプレイヤーの利き手側を指す。

8） ロビング。バドミントンのショットの一つであり、高さを出して相手のコート後方に返すショットである。ダブルスにおいては打たれたプレーヤーは攻撃的なショットで返球できるためチャンスとなることが多い。

9） コート外の横側にシャトルを打ってしまうこと。サイドアウトしたプレイヤーは失点となる。

文献

[1]「けがを気にして追い込みが不足」朝日新聞2021年7月31日

[2]有田 圭一; 加藤 達男; 渋谷 公次; 吉岡 照悦; 西島 吉典, 1998 バドミントンのバックハンド・ストロークに関する一考察−筋電図・ゴニオグラムからの検討− 大阪教育大学紀要 第 IV 部門: 教育科学, 46(2), 291−301

謝辞

本研究への助言、またアンケートに関して協力してくださった三菱自動車京都バドミントン部監督高木孝一郎氏、マネージャー築山晴美氏に心より感謝申し上げます。またアンケートに回答してくださった三菱自動車バドミントン部の選手の方々にお礼申し上げます。